

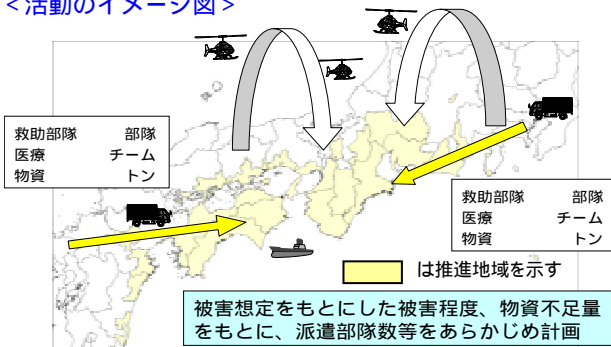
「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく具体的な活動内容に係る計画の概要

被害想定等をもとに、あらかじめ地域ごとの派遣内容、必要量等を計画

発災直後から、計画に基づき派遣の準備や物資の調達を開始

救助、医療等の応急対策の緊急実施。被害状況等の情報に応じ活動内容を修正

<活動のイメージ図>



<被害想定概要>

全壊棟数	約36万棟
死者数	約1万8千人
重傷者数	約2万人
避難所 避難者数	約500万人 (1週間後)

(朝5時のケース)

物資調達

主なものに限って記載
物資調達量は発災後1週間分

徳島県へ
飲料水 約2,400t
食料 約280万食
育児用調整粉乳 約1.1t
毛布 約5.1万枚
おむつ 約2.0万枚
簡易トイレ 約770基

高知県へ
飲料水 約3,700t
食料 約460万食
育児用調整粉乳 約1.5t
毛布 約6.4万枚
おむつ 約6.8万枚
簡易トイレ 約1,600基

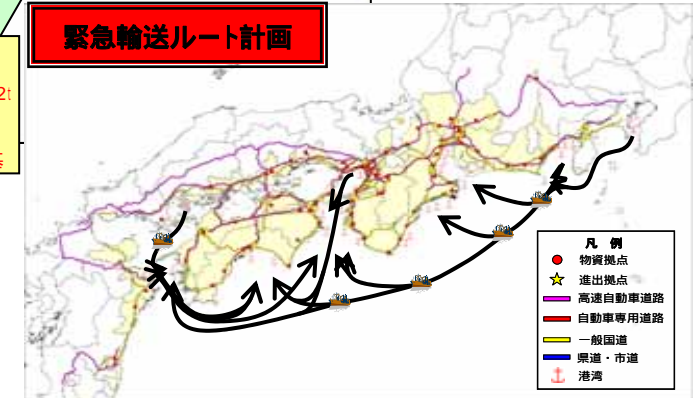
和歌山県へ
食料 約410万食
育児用調整粉乳 約1.2t
毛布 約2.9万枚
おむつ 約6.1万枚
簡易トイレ 約1,000基

三重県へ
食料 約770万食
育児用調整粉乳 約2.9t
毛布 約4.0万枚
おむつ 約9.1万枚

静岡県へ
食料 約540万食
育児用調整粉乳 約2.9t
おむつ 約5.1万枚

愛知県へ
飲料水 約27,000t
食料 約2,300万食
育児用調整粉乳 約8.6t
おむつ 約5.2万枚
簡易トイレ 約4,900基

緊急輸送ルート計画



応援部隊の派遣

応援部隊の派遣数は最大値

この他に、長野、岐阜、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、岡山、広島、香川、愛媛、大分、宮崎の各府県に、合計2,300人派遣

徳島県へ
警察庁 710人
消防庁 1,280人
防衛省 2,400人
合計 4,390人

高知県へ
警察庁 2,730人
消防庁 2,940人
防衛省 8,100人
合計 13,770人

和歌山県へ
警察庁 1,830人
消防庁 2,960人
防衛省 6,500人
合計 11,290人

三重県へ
警察庁 2,390人
消防庁 3,280人
防衛省 4,700人
合計 10,370人

静岡県へ
警察庁 2,540人
消防庁 2,860人
防衛省 11,600人
合計 17,000人

全般支援 42,800人
(派遣場所を予め特定しない部隊)

派遣規模(合計)
121,950人

愛知県へ
警察庁 2,100人
消防庁 9,930人
防衛省 8,000人
合計 20,030人

広域医療搬送

岡山空港
広島西飛行場
広島空港
防府飛行場
高松空港
松山空港
福岡空港
長崎空港
大分空港
熊本空港
宮崎空港

小松飛行場
美保飛行場
福岡空港

搬送目標患者数
584人

入間基地
羽田空港
厚木基地
松本空港
小松飛行場
伊丹空港
八尾空港

新千歳空港
仙台空港
羽田空港

医療チームの必要数
217チーム
DMAT派遣可能数
109チーム
(不足は救護班等で充足)

●:被災地内広域搬送拠点
青字:医療チーム 参集拠点
赤字:被災地外広域搬送拠点

進出拠点

警察庁 8箇所 消防庁 8箇所 防衛省 14箇所

活動拠点

東京都	4箇所	長野県	1箇所	岐阜県	22箇所	静岡県	111箇所	愛知県	119箇所
三重県	124箇所	滋賀県	2箇所	京都府	2箇所	大阪府	7箇所	兵庫県	52箇所
奈良県	40箇所	和歌山県	111箇所	岡山県	15箇所	広島県	6箇所	山口県	6箇所
徳島県	103箇所	香川県	99箇所	愛媛県	157箇所	高知県	136箇所	大分県	14箇所
宮崎県	7箇所	合計	1,138箇所						

広域物資拠点

長野県	1箇所	岐阜県	3箇所	静岡県	4箇所	愛知県	4箇所	三重県	9箇所	滋賀県	2箇所
京都府	1箇所	大阪府	3箇所	兵庫県	6箇所	奈良県	2箇所	和歌山県	7箇所	岡山県	3箇所
広島県	1箇所	山口県	1箇所	徳島県	5箇所	香川県	2箇所	愛媛県	3箇所	高知県	5箇所
大分県	1箇所	宮崎県	2箇所	合計	65箇所						

緊急輸送ルート

高速自動車道路： 東名高速道路、中央自動車道等27路線
自動車専用道路： 名阪国道、名古屋高速道路都心環状線等32路線
一般国道： 1号、2号等30路線
県道、市道： 21路線

港湾

川崎港、横浜港、横須賀港等29港